

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105784
法人名	北吉田診療所
事業所名	グループホームしょうせきあいあい
所在地	松山市南吉田町1872-2
自己評価作成日	平成23年 3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設では、軽症から重症までのあらゆる段階の利用者を受け入れることができます。胃瘻、IVH、気管切開、人工呼吸器等、医療の必要な方も積極的に対応し、常に医療と介護を一体的に提供することにより、結果として看取りまで行っています。今後とも地域住民のニーズに配慮し、その実態に即した施設運営を行っていきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

友人がよく来られる利用者の居室には、友人用のスリッパが用意されていた。又、遠くに居る友人から電話があった時には、職員が取り継ぎ、ゆっくりお話ができるようサポートされている。喜寿を迎えた利用者は、ご自宅に戻ったり買い物する等、ご家族と外出してお祝いをされた。「戦争」のことについて、よくお話しされる利用者の方もおり、職員はパソコンで調べて、一緒にお話ができるように努力されている。又、職員は、利用者のお好きな歌を覚えて一緒に歌うようにされている。
酸素吸入を必要とする利用者についても、近所の公園に桜のお花見に出かけられるよう、職員から提案して実現された。近ごろ、言葉をあまり発しなくなっていたようだが、桜を見て「きれい」と言われたことに職員は感動をされたようだ。利用者のお好きな釣りの話題や出身地の方言等で話しかけながら、コミュニケーションを図っておられる。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年5月17日

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームしょうせきあいあい

(ユニット名) しょうちゃん

記入者(管理者)

氏名 村田 佳乃

評価完了日 平成23年 4月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 地域の利用者様が住み慣れた地域で、これまでの生活習慣 を出来るだけ変えることなく、家庭的で温かみのある生活を 提供し、常に医療と連携した終身介護を行っている。	
			(外部評価) 事業所理念を玄関に掲示されている。ユニット理念は、ユ ニットのリーダーが替わるごとに、職員全員で話し合い作成 されている。現在は「利用者様に家庭的で安全な介護を提 供します」「地域との関係を築きふれあいを大切にします」等 と、居間にユニット理念を掲げておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地方祭など季節の行事に積極的に参加したり、地域の商 店、理髪店利用し、利用者様が地域生活を楽しめるよう支 援に取り入れてる。	
			(外部評価) 事業所の近隣から入居している利用者が多く、散歩時には 知り合いの方に会うこともよくあり、あいさつ等を交わしてお られる。家族会時、みたらし団子やおはぎを手作りした際 には、ご近所の方におすそ分けをされた。近所の日本舞踊の グループが、事業所で踊りを披露してくださることもある。又、 フラダンスグループの方が来られる時には、チラシを作って ポスティングして、ご近所の方も一緒に楽しめるようにされ た。職員が折り紙でバラの花のレイを作りプレゼントしたこ とがきっかけで、参加された方から「バラの折り方を教えてほ しい」と希望があり、交流のきっかけとなりつつあるようだ。お 隣の方が事業所まわりをほうきで掃いてくださることもあり、 又、職員がお隣の前の道等を掃除されることもある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 家族会や運営推進会議での説明、支援の在り方や現在の 介護情報などを提供している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 地域の方々や家族様に参加していただき、運営者との意見交換等を実施し、今後の施設サービス向上へ生かしている。	今後は、2ヵ月ごとに会議を開催できるよう計画的に取り組みをすすめ、会議のメンバーについても地域の方等、いろいろな立場の方に参加をいただき、より交流を深めていかれてほしい。又、事業所のケアサービス等について、ご意見等もうかがい、よりよいケアに向けて反映していかれてほしい。職員は「会議に参加してよかったと思っただけのような会議内容に努めていきたい」と話しておられた。
			(外部評価) 会議は、ご家族の希望もあり、日曜日の13時から併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催されている。行事報告や外部評価結果の報告を行い、参加者と意見交換する時間を設けておられる。民生委員の方には、地域の行事を教えていただくこともある。ご家族から「日々の暮らしの様子が聞きたい」との意見があり、次回の会議時に「ターミナルケア」の取組み事例を紹介された。会議時、法人理事長による「医療講話」を行う際には、地域からの参加者も多いようだ。職員は他グループホームの運営推進会議に出席されることもあり、「会議の内容やお茶の出し方等、勉強になる」と話しておられた。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村へはケアについて相談したり、研修や運営推進会議等を通じて協力関係を築くようにしている。	市や地域包括支援センターの担当者が、運営推進会議に参加してくださっており、事業所の取組みについて「看取りをしていることは、素晴らしいと思います」と感想をいただいたり、外部評価結果の報告の際には「良い点は、ますます良くして欲しい」等の意見をいただいた。
			(外部評価) 市や地域包括支援センターの担当者が、運営推進会議に参加してくださっており、事業所の取組みについて「看取りをしていることは、素晴らしいと思います」と感想をいただいたり、外部評価結果の報告の際には「良い点は、ますます良くして欲しい」等の意見をいただいた。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 医療的な場合(生命危機を及ぼす)のみとし、その場合でも家族、スタッフの見守りが可能な時は拘束をしないよう支援している。	グループホームに期待されているケアのあり方について、職員で話し合うような機会にされてはどうだろうか。利用者個々が最期まで自由で安心して暮らせるような支援のあり方について、家族会や運営推進会議等でもご意見をうかがいながら、ケア等の工夫で身体拘束をしなくてすむような支援を実践できるよう、努力を続けていかれることが期待される。
			(外部評価) 点滴等、医療行為を行っているような様子も多くみられ、ご本人が点滴の管を抜いてしまわないように、利用者の中には手首にタオルを巻き、ベッドにくっつけている方もみられる。「命を守るための身体拘束」との法人理事長の指示のもと、ご家族と相談して身体拘束を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はもちろん、言葉の暴力にも気を払い、管理者、職員間で注意し話し合い防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 適応者には身体障害者手帳や生活保護の申請を積極的に行い、医療・福祉用具等に関する助成制度を活用している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には担当職員が重要事項等を順追って説明し、後にトラブル等が発生しないよう、契約内容の理解を図っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会等の場で意見をいただいたり、設置している意見箱に意見を投函していただいたり、職員や管理者が家族から直接意見や苦情等を聞いたりし、それらを運営者・管理者等で協議し運営に反映させている。 (外部評価) 家族会の際に、利用者のご家族・職員でおやつを作ったり、餃子作りやオードブルの料理を作り、交流等して楽しまれている。居室にて利用者のご家族水入らずで食事するような機会も作られた。家族会時「エプロン持参をお願いします」と案内すると、積極的に協力してくださるご家族もあったようだ。来訪が少なめのご家族には、毎月の送付書類の中に、職員からの手紙と利用者ご本人の写真を同封しておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			意見箱を設置し、職員の意見等に対して運営者・管理者が協議・回答し、可能な範囲内で運営に反映させている。	
			(外部評価)	
			現在、看護師資格を有する職員が8名おられ、医療と看護の両面での支援に取り組んでおられる。この一年間、職員の異動は多かったようであるが、毎週、緊急時の対応や誤嚥等、職員の勉強会を続けておられる。職員は「今後、夏祭りやほたる狩りなども計画したい」と話しておられた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			賞与支給に際しては、賞与査定を行い、職員個々のモチベーション維持に努めている。また定期的にユニット移動でマンネリ化を防止している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			行政や民間団体が主催する諸種の研修会に必要な応じて、勤務時間内に出席させスキルアップに努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			運営推進会議や家族会等に地域包括支援センターや近隣グループホームの職員にも出席していただき、情報交換等に努めている。また必要に応じて利用者の紹介等を行い、連携に努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			施設見学希望があれば積極的に受け入れ、実際に施設での生活を見ていただき、質問等があれば回答している。利用者が納得し安心して生活できるよう、会話する時間を多く持てるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 見学時や相談時に十分な時間をとり、不安の軽減に努めているが、実際に利用が始まってから不安なことや要望があれば、その都度、できる限りは話をする機会を持つようにしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期に見極めた支援内容や、本人の希望は時間の経過と共に変化していく為、ご家族の協力を得たりし、その時々で柔軟に対応できるよう努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 対話を中心に、一日を送っており、生活の知恵を学んだり、昔の大変だった頃の苦労話に共感したりと、一緒に生活を送る家族のように過ごしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会を設けることにより、多くの職員とコミュニケーションを図ることが出来る場を提供している。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に来られたり、家族と一緒に外出をして、馴染みの方々に会ったり、馴染みの場所へ出かけたりしている。 (外部評価) 友人がよく来られる利用者の居室には、友人用のスリッパが用意されていた。又、遠くに居る友人から電話があった時には、職員が取り継ぎ、ゆっくりお話ができるようサポートされている。喜寿を迎えた利用者は、ご自宅に戻ったり、買い物する等ご家族と外出して、お祝いをされた。「戦争」のことについて、よくお話しされる利用者の方もあり、職員はパソコンで調べて、一緒にお話ができるように努力されている。又、職員は、利用者のお好きな歌を覚えて一緒に歌うようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりを日々の生活の中で把握して生活を通じて利用者同士が関わりを持つような支援が来ている。利用者同士も、出来る人が出来ない人を手助けするなど、支えあいの関係ができています。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者には母体診療所の患者やその家族、近隣地域住民も多く、死亡退去等で利用契約が終了しても、引き続きその家族が入居されたり診療所と関わりを持っていただいたり、良好な関係を築いている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 夜間の就寝時間や、居室での過ごし方や、持ち込みの食べ物など、利用者一人ひとりの生活リズムや嗜好に出来るだけ合わせるよう努めている。 (外部評価) 酸素吸入を必要とする利用者についても、近所の公園に桜のお花見に出かけられるよう、職員から提案して実現された。近ごろ、言葉をあまり発しなくなっていたようだが、桜を見て「きれい」と言われたことに職員は感動をされたようだ。職員は、利用者のお好きな釣りの話題や、出身地の方言等で話しかけながらコミュニケーションを図っておられる。	法人の理念にも沿い、利用者個々の「幸福を追求」した取り組みが実践できるよう個々のアセスメントの充実に取り組みられ今後さらに、個々の「ご本人らしさ」を大切にされた支援に工夫を重ねていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族からの情報や、以前に利用されていた施設等からの情報をもとに、過去から現在までの経過を	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の対話やケアを通じて本人から情報を得たり、職員間で情報交換を行い、全体的に利用者一人ひとりを把握している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			本人の状態や生活状況を考慮し、職員間で話し合い計画作成している。	
			(外部評価)	
			介護計画は職員で話し合っ立て、ご家族の来訪時に説明しておられる。ご本人からの生活の希望は「今まで通りの生活をしたい。お風呂に毎日入りたい。」等、お聞きしているが、ご本人の健康状態のこともあって、実現に難しさもあるようだ。介護計画は、個々に、食事・清潔・排泄・服薬・その他と、それぞれの項目に分けて立て、3ヶ月毎に見直しを行っている。	ご本人の思いや意向を主体にして、ご家族等ともご本人の暮らしやケアについて、ゆっくり話し合うような機会を作り、介護計画に反映していかれてほしい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			誰が見ても分かるよう、日々の記録を利用者ごとに行い、カンファレンス等を通じて情報を共有し、ケアに活かしている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			必要に応じ、グループホームだけでなく、他のサービスを利用できるよう支援している。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域資源の把握に努め、利用者一人ひとりの力を発揮する為に活用できるよう心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	主治医の往診が毎日あり、症状の変化に的確に対応し、急変時にも主治医、スタッフの素早い対応、的確な処置により健康管理に努めている。
			(外部評価)	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	24時間看護師が勤務し、日常の変化、状態把握に努めている。異変に気付いた時には細かくメモし正確に主治医に伝え対応している。
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	医療機関と連携を取り合い、情報交換・相談し、早期退院に努めている。
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	主治医より、重度化・終末期には家族への説明がその都度行われ、殆んどの方が看取りの希望があり、主治医から説明を行っている。スタッフ間でのカンファレンスを通して、情報の共有化を図っている。
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			勉強会や救急救命講習などを聞き、医師や看護師にも、勉強会に参加してもらい指導してもらっている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			消防署の協力を得て、災害時の対応の仕方を教わっている。勉強会でも取り入れ、防災意識を高めている。	
			(外部評価)	
			昨年度は、避難訓練を実施するまでに至らなかったようであるが、昨年の秋には、併設小規模多機能型居宅介護事業所とともに、コンセントからの火災を想定して、避難経路について話し合われた。湯水時の対策として飲料水を確保しておられる。	事業所では「今秋までには、消防署の協力を得て、地域の参加もいただきながら避難訓練を実施したい」と考えておられる。災害時、いざという時に、事業所が地域と協力し合えるような体制作りに向けて、取り組みをすすめていかれてほしい。運営推進会議等を活かして、地域の自主防災組織や地域の協力者等との関係作りにも取り組み、利用者、職員、地域の安心安全に向けて取り組んでいかれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			常に、人生の先輩であるという目で利用者として接している。また、必要な場合を除き個人情報に関する資料等は外部に持ち出せないようにし、情報が外部に漏れないように注意している。また個室であり、それぞれの生活スタイルを維持し、プライバシーの確保に努めている。	
			(外部評価)	
			調査訪問時、職員は入浴が終わった利用者へ「気持ち良かったですか」と、視線を合わせて笑顔で声をかけておられた。職員は、車椅子を移動させる時には、ご本人に声かけしてから動かすように気を付けたり、又、食事介助時にも、献立をお伝えしてから介助するように心がけておられる。ご自分で食器を持って食べることができるよう、機能低下の状態に応じて、軽い食器に替えるようにされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			日々の暮らしの中で、何をどうしたいか等、適宜会話に織り交ぜて希望を伺い、選択できるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 就寝、起床のタイミングや居室での過ごし方等、本人の意向 に沿えるよう配慮している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) その人に似あう服をアドバイスしたり、本人の希望に合わせ て、理容・美容を行ったりしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 年中行事等に合わせて料理を提供したり、旬のものを素材 にしたりして、献立を工夫している。また、利用者の状態に応 じて、おやつや準備や食事の片づけを一緒に行っている。	
			(外部評価) 食事の前に口腔ケアの体操として、季節感を感じられるよ うな歌を選んで歌っておられる。献立は施設長が考え、月曜 日から金曜日は、小規模多機能型居宅介護事業所の厨房 で調理されたものが届き、ユニットごとに配膳するよになっ ている。土・日曜日は、それぞれのユニットで食事を作り、料 理の得意な利用者が味付けをしてくださることもある。食後、 洗ったお盆を拭いてくださる利用者もいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分摂取量は毎日記録している。水分をあまり摂られ ない方には本人の好む飲み物を家族様に相談し、用意して もらったりしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 1日3回食後しっかりと歯磨きが出来ているか確認し、食物残 差なく清潔な状態を保つよう努めている。食事をされていな い利用者(胃瘻、IVH挿入者)の方も1日3回口腔ケアを行い 清潔保持している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			個々の排泄パターンを把握し、時間で声かけ誘導し、自立に向け支援している。	
			(外部評価)	
			日中は、紙パンツ等を利用し、トイレで排泄できるよう支援されている。ベッド上で過ごす時間が長く、おむつを使用している方も、ご本人から尿意を訴えるような場合には、トイレにお連れしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			食事のメニューに野菜を多く取り入れている。主治医指示に従い、緩下剤を使用している。	
			(外部評価)	
			気分や体調を考慮し、利用者の意に沿うように入浴時間を提供している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			お風呂がお好きな利用者が多く、一番風呂を好まれるようだ。事業所では、週2回の入浴支援を基本としておられ「毎日入りたい」と希望する利用者もあるが「健康状態等、身体的な負担」のこともあって、希望に応じることが難しいようだ。	
			(外部評価)	
			一人ひとりの気分や体調を把握出来るようコミュニケーションを大切にし、気軽に意思表示していただけるよう努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬に関しては看護師が管理しており、薬の説明書は個々にファイリングし、用法・用量・副作用が確認できるようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの得意、不得意な分野等の情報を職員が共有しており、得意な分野には進んで参加していただけるよう支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節や天候も考慮し、施設周辺を職員と供に散歩したり、施設敷地内の別館広間に移動し、	
			(外部評価) 近くにある公園に散歩に出かけたり、季節の花を見に出かけることもある。小規模多機能型居宅介護事業所の利用者と一緒に外出をされることが多く、利用者からの希望で、三津の神社へ初詣に行かけたこともある。昨夏には、双海町へほたるを見に出かけ喜ばれたので「今年は、ご家族にも参加を呼び掛けてみよう」と考えておられた。職員は「季節のよい時期に外出の機会を増やしたい」と話しておられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お小遣いが必要な時は、ご家族へ連絡し、持参していただく。ご家族が県外の場合は、事務所にて預かり、買い物、散髪等必要な時に使えるようにしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の希望には速やかに対応している。年賀状を職員と一緒に書いたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			不快な音が出ないよう、廊下や床にはカーペットが敷かれている。また、年中行事や季節に合わせて飾りつけなどをして、心地よく過ごせるように努めている。	
			(外部評価)	
			「職員と利用者との対話を大切にしたい」との法人の考えから、居間にはテレビを置かず、職員は利用者とは会話することに心がけておられる。ボランティアの方の協力で、毎月、折り紙教室を行っておられ、作品が壁に飾られてあった。トイレ・浴室のドアには大きい文字で場所名が表示されているが、居室は利用者個々にご自分の部屋と認識しておられるとのことで、表示はされず、必要時には職員が案内しておられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			居室は個室になっており、一人で過ごされたい時には居室にてくつろいでいただいている。また、他の利用者の居室へも自由に行き来できるため、しばしば利用者同士の交流も見られる。	
			(外部評価)	
			居室では使い慣れた家具やテレビ等をお持ちいただき、配置も本人や家族の希望に沿ったものにし、心地よく過ごしていただけるよう努めている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			居室には、テレビを置いていたり、お孫さんが書いた絵や職員からプレゼントされたお誕生日の色紙等を飾っておられた。ベッドで長時間過ごすような利用者の居室は、窓を開けて風を通しておられ、職員がご本人に「寒くないですか、このくらい開けていいですか」と声をかけて室温調節しておられた。	
			(外部評価)	
			居室には、テレビを置いていたり、お孫さんが書いた絵や職員からプレゼントされたお誕生日の色紙等を飾っておられた。ベッドで長時間過ごすような利用者の居室は、窓を開けて風を通しておられ、職員がご本人に「寒くないですか、このくらい開けていいですか」と声をかけて室温調節しておられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			建物に慣れるまでは職員が付き添い、徐々に一人で行動出来るよう支援している。またトイレ、浴室、廊下などには手すりを設置し、広さも十分確保されている。	
			(外部評価)	
			建物に慣れるまでは職員が付き添い、徐々に一人で行動出来るよう支援している。またトイレ、浴室、廊下などには手すりを設置し、広さも十分確保されている。	